

議員氏名：浜井 直彦

議案番号：議案第21～25号

案件名：令和8年度二宮町一般会計予算

令和8年度二宮町国民健康保険特別会計予算

令和8年度二宮町後期高齢者医療特別会計予算

令和8年度二宮町介護保険特別会計予算

令和8年度二宮町下水道事業会計予算

討論内容：

私は、議案第21号「令和8年度二宮町一般会計予算」及び議案第25号、下水道事業会計予算に対し反対、第22号から第24号の各特別会計予算に対し賛成の立場で討論いたします。

現在、世界はウクライナや中東における紛争の長期化、国際秩序の激変という不安定な荒波の中にあります。この影響はエネルギー価格や物価の高騰として町民の暮らしを直撃し、国内では、労働力不足が公共交通の維持を脅かすなど、社会構造が根底から揺らいでいます。こうした難局にあって、自治体の予算は、町民の命を守り抜く覚悟と次世代への責任ある投資が示されなければなりません。

しかし、先日の予算審査特別委員会において、一般会計予算案が否決されたという事実こそが、本予算案が、いかに町民の負託に応えられていないかを物語っています。

まず、一般会計予算についてです。

1つ目に、防災拠点としての適格性を欠く新庁舎計画。新庁舎の建設予定地が河川溢水時の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域に隣接しているという看過できない事実です。

地球規模での気候変動により、豪雨災害の発生リスクは年々高まっています。大規模災害時、町の司令塔となるべき役場庁舎は、何よりも安全な場所に位置し、機能し続けなければなりません。自らが浸水や土砂災害のリスクにさらされる場所に司令塔を置く計画は、危機管理の要諦を著しく欠いた不適切な選択と言わざるを得ません。

県の河川整備計画も段階的には進めていますが、町としてのグリーンインフラをはじめ、浸水対策について、積極的な推進が感じられないまま計画が進められています。さらに、既存の避難場所であるラディアンや災害対策本部となる現庁舎において、非常用電源の接続確認すら行われていない管理実態が審査で判明いたしました。

立地上のリスクを抱え、足元の管理すらおろそかな現状で、巨額を投じて防災拠点を標榜する執行部の姿勢には強い憤りを禁じ得ません。

2つ目に、自転車安全対策における不作為。4月の青切符導入目前に、広報周知を3月下旬まで先送りする、3月25日発行の広報にのみやに掲載するという周知スケジュールは、町民の安全を軽視しています。

私は、昨夏の時点で担当部長に対し早期の対策を促してきましたが、執行部は、ルールは従前と変わらないと、私の提言も取り合わず、積極的な対策を怠ってきました。準備する時間は十分にあったはずですが、この慢心が生んだ無策ぶりを厳しく批判したいです。

3つ目に、将来財政に深刻な懸念と停滞する諸施策。

新庁舎建設やラディアンを含めた駅周辺公共施設再編計画に伴い、今後も多額の予算執行が予定

されています。これらが町の財政を圧迫し、地域公共交通の確保や、校舎一体型の小中一貫校推進といったほかの喫緊の事業を駆逐してしまう懸念は拭えません。財政の健全性と事業の優先順位が精査されないまま、なし崩し的に巨大プロジェクトを進行させることは、次世代への無責任なツケとなります。

続いて、下水道事業会計。県による葛川のしゅんせつ改良工事が段階的に進む一方、町が継続する雨水貯留槽補助金には反対です。

執行部は、流域治水や水道代削減による物価高騰対策と理由を様々言いますが、予算規模を3,250万から150万に縮小した現状では、その実効性は極めて限定的です。物価高騰対策というのであれば、一部の世帯に限られる不公平な支援ではなく、全町民が恩恵を享受できる実効性の高い事業へ財源を振り向けるべきです。

3特別会計については、賛成です。内容は妥当と判断いたします。

特に、町の特定健診においてAIを活用し、効率的な受診勧奨で成果を上げている点は高く評価いたします。この結果を出す工夫を、他の事務事業にも波及させ、二宮町の健康寿命の延伸に真摯に取り組むことを要望いたします。

最後に、予算とは町民との約束です。大きな未来へのテーマも必要ですが、町民との信頼は、細かい施策を確実に行うかです。執行部におかれましては、委員会での否決という重い審判を真摯に受け止め、実態の伴わない組織改編や、言葉遊びのような事業に固執することなく、町民の命と生活に真に寄り添った行政運営へ立ち返ることを強く求めます。

以上、町民の負託に応えるべく、私の反対討論を終わります。